

「東アジア スタディツアー」プログラムの基盤整備 韓国 ソウルおよび江華島 実地調査 報告

プロジェクトメンバー：徐正敏*、嶋田彩司、渡辺祐子（*：代表者）

標記の研究プロジェクトの計画にもとづき、下記の日程で現地予備調査と研究研修会等をおこなった。

1. 8月23日（火） 羽田発 11:30金浦着
2. 同上 ホテルチェックイン後、昼食。14:00～ 景福宮等 実地調査
3. 同上 17:00～ 上記2に関する研究会
4. 8月24日（水） 9:30 延世大学集合
5. 同上 江華島 史跡見学～昼食～史跡実地調査 別添資料参照
6. 同上 15:00 宿舎着 16:00～19:00 研究会
7. 8月25日（木） 9:00～ 江華島史跡実地調査
8. 同上 14:00 ソウル市内で解散
9. 8月27日 金浦発 22:00羽田着

参加者名簿

1. 洪承杓（ホン スンピョ） メソジスト神学大学非常勤講師
2. 李容敏（イ ヨンミン） 牧園大学非常勤講師
3. 洪伊杓（ホン イピョ） メソジスト教会宣教師
4. 松山健作（マツヤマ ケンサク） かんよう出版社員
5. 孫承浩（ソン スンホ） 延世大学非常勤講師
6. 徐正敏（ソ ジョンミン） 明治学院大学教授
7. 渡辺祐子（ワタナベ ユウコ） 同上
8. 嶋田彩司（シマダ サイシ） 同上
9. シム スンジョン 明治学院大学国際学部3年生
10. モク ジンヒョン 同2年生
11. イ ヘプシバ 明治学院大学文学部2年生

フィールド・ワーク2016年8月24日-25日

案内・通訳： 洪伊杓、松山健作 / 説明： 李容敏、洪承杓

なお調査当日に、案内・通訳を引き受けてくださった洪氏、松山氏が作成した冊子が参加者に配布された。参考資料として以下に添付する。

「江華島」フィールド・ワーク

ソウル近郊にある「江華島（カンファド）」をご紹介します。日韓歴史の本場である雲揚号事件

が起こった「草芝鎮」、日韓修好條約(江華島条約)を締結した「鍊武堂跡地」、世界文化遺産の韓国最大の北方式支石墓「江華支石墓」、韓国の三大観音聖地の一つである「普門寺」、韓国最初の聖堂で、現存する韓国最古の木造聖堂「聖公會江華聖堂」、裸婦像がもっと面白い「傳燈寺」、フランス・米国の艦隊と戦った激戦地「廣城堡」、江華島の文化遺産をひと目で見る事ができる「江華歴史館」などがある、日韓の歴史が生き生きしている島です。

訪問地：①甲申鎮→②鍊武堂・江華城→③江華聖公會聖堂・高麗宮→④江華支石墓
→⑤傳燈寺・江華三郎城（鼎足山城）→⑥温水里聖公會聖堂→⑥廣城堡・草芝鎮

1. 雲揚号事件(不平等な江華島条約の締結)^{カッゴットチン}：甲申鎮など

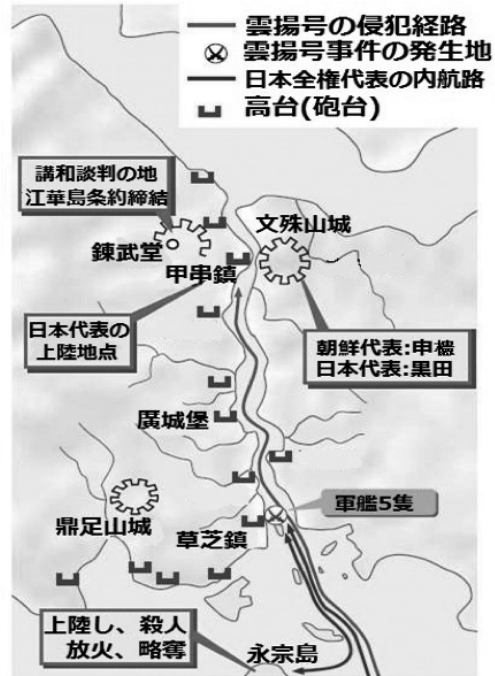
江華島(カンファド)事件とも呼ばれるこの事件は、1875年(明治8年)9月20日に朝鮮の首府漢城の90km北西岸、漢江の河口に位置する江華島(現仁川広域市江華郡)付近において日本と朝鮮の間で起こった武力衝突事件です。日本の軍艦雲揚号が江華島付近で朝鮮軍の警告を無視して領海侵入したのです。飲料水補給の口実を設けてポートをおろし漢江の運河を遡行しようとしたとき、江華島草芝鎮の砲台から砲撃を受けました。日本側は直ちに艦砲射撃で応じ江華島草芝鎮を攻撃して壊し、翌日には江華島の南にある済物浦対岸の永宗島永宗鎮を砲撃し、上陸して民家を焼き払い、軍民数十名を殺し、38門の砲を奪い、官庁を燃やしました。日本は朝鮮の軍隊が日本の船を先に攻撃したと責任を取ることを要求し、軍艦輸送船6隻を江華島に派遣して脅迫しました。日本はこれを契機に翌年の1876年(明治9)2月3日に江華府で朝鮮と日本は条約を結びました。「江華島条約」(日朝修好条規)は朝鮮が最初に結んだ近代的な条約で、条約の内容は朝鮮が釜山を含む3港を開き日本と貿易をする。日本側は朝鮮の海岸線を測量する権利、朝鮮に入る日本人は日本人領事が裁判する権利など、日本に有利で朝鮮に不利な条約でした。江華島は、江華島事件の他にも、元軍、丙寅の役(丙寅洋擾)・辛未の役(辛未洋擾)のフランス軍やアメリカ軍が襲来しさら



に朝鮮戦争の激戦地になるなど、外国軍に侵略された場所です。

永宗城を攻撃する雲揚の兵士ら(想像図)

『明治太平記』(編輯:村井静馬 画:鮮斎(小林)永濯、序:明治8年3月27日、刊行明治13年(1880年)12月、判本:東京・小林鉄治郎)による。なお絵図中にある旭日旗は1870年6月13日(明治3年5月15日)太政官布告第355号により制定された「陸軍御国旗(陸軍御國旗)」であり、この当時の御国旗ないし海軍旗ではない。軍艦旗(海軍旗)への制定は明治22年である。



▲雲揚号事件 (1875)

2. 「鍊武堂」跡地

鍊武堂跡地は江華府の軍事を訓練させる場所で、1876年高宗 13年 2月26日日韓修好條約（江華島条約）を締結した所です。江華島条約により、釜山・仁川・元山の3港を日本に開港によって西洋文物を受け入れるようになりましたが、実際は日本の政治的・経済的・軍事的な朝鮮侵略が始まりました。会談の当日に両国代表たちが会談を始めようとした時に甲申鎮から大砲の音が聞こえ、会談に参加したシンドンが問いました。“会談中に何の大砲射撃です?”、“今日を祝うためにうつのです”。朝鮮使臣たちはそれ以上抗議することができなかったそうです。大砲の音は朝鮮の人たちにとっては日本の脅かしの音に聞こえたみたいです。





3. 江華聖公會聖堂

現存する韓国最古の木造聖堂建築で、1900年11月15日に聖公会の韓国教区の初代主教であったコ・ヨハン（ジョン・コルフェ）主教が韓国最初の聖堂を建てました。カトリックやプロテスタントには見られない伝統的な韓国様式で建てました。配置や構造はローマのバジリカ様式を借用しつつも、建築技法や姿勢は純粋な韓国の伝統方式の寺院の雰囲気を感じます。これは、カトリック、プロテスタントを含むキリスト教の韓国宣教史において、他に例を見ないものとして聖公会の初代宣教師たちの朝鮮時代の韓国式家屋との調和と一致を狙う土着化精神をよく示し、十字架などに三太極の模様や蓮の花などをあしらったことにも宗教観の和解(仏教の寺院雰囲気)と対話を志向しようとした神学的意図を見出しています。聖堂外部の柱などには下記のように漢詩の信仰告白が記されています。

無始無終先作形聲眞主宰 (무시무종선작형성진주재)

宣仁宣義聿照濟拯大權衡 (선인선의울조제증대권형)

三位一體天主萬有之眞原 (삼위일체천주만유지진원)

神化主流庶物同胞之樂 (신화주류유서물동포지락)

福音宣播啓衆民永生之方 (복음선파계중민영생지방)



4. 江華支石墓

江華島にはこの支石墓以外にも松海面と河帖面一帯に高麗山北側斜面稜線より、平地にいたるまで20～30予基の青銅器時代の支石墓が分布されています。富近里の支石墓は韓国最大の北方式支石墓の高さは260cm、石墓（テーブルのような形）で、蓋石の長さが710cm、幅550cmで2個の支石が支えています。京畿地方を含めて中部地方では珍しい巨大なテーブル式（卓子式）として、一般的に北方式支石墓の構造は4枚の支え石で直四角形石室を構築し、その上に蓋石（ふた石）を上げておく方式を取るのに、この支石墓には石室の短い支え石2個はなくなっています。これは過去に破壊されて消えたことにて推測し、長い軸は南北方向に向いています。中部地方には江華、仁川、水原を結ぶ北方式支石墓の分布地域がある。これは江華の檀君伝説を同じく先史時代の遺蹟として重要な資料です。



H.H.Underwoodが撮影した江華支石墓

5. 傳燈寺・江華三郎城(鼎足山城)・摩尼山

檀君の三人の息子が建てたという三郎城の中に位置したこのお寺は、高句麗小獸林王11年（西暦381）に高僧阿道和尚が築造したと伝えられています。創建当時には真宗寺と呼ばれました。現在の傳燈寺という名称は、高麗時代の忠烈（チュンヨル）王（1282年）の王妃である貞和宮主（チョ

ンファクンジュ) 王氏が、仏前に玉で作った玉燈を捧げてから、その後は傳燈寺と呼ばれました。大雄殿のあちこちには丙寅洋擾(ピョンインヤンヨウ・カトリック信徒虐殺と弾壓に對抗して、フランス艦隊が侵入してきた事件) 当時、フランス軍と戦った兵士たちが武運(戦闘の運)を願って自分たちの名前を書き残した跡が残っており、観光客の目を引いています。傳燈寺の代表的な建物である大雄宝殿は朝鮮中期の建築様式を見せてくれる貴重な文化遺産で、傳燈寺大雄宝殿が世の中にもっと有名になったことは大雄宝殿の屋根を支えている裸婦像のためです。



H.H.Underwood 宣教師家族が訪ねた江華三郎城(鼎足山城)と摩尼(マニ)山

6. ^{オンスリ} 温水里聖公會聖堂

江華島の吉祥面にある温水里聖公會聖堂(文化財資料第15号)は、1906年イギリス人聖公会神父 Mark N. Trollopeが建てた聖堂建物です。「聖アンドレ聖堂」とも呼ばれるこの教会は、韓国キリスト教初期の礼拝堂の中でも代表的な東西折衷式の型建物です。正面3間、側面9間で、棟両端に十字架が飾られているため、外部からも教会であることが分かります。温水里聖堂は町から離れた場所にあります。100年の歳月が経った今でも管理が行き届き、宮廷の一部のような美しさがあります。教会の正門も韓国の伝統的な様式を用い、両班貴族の住宅に使った「瓮울(ソスル)三門」の高い構造で、真ん中には「鐘樓」があり、現在もこの鐘は使用されています。

2004年11月28日、新しい聖堂築城式と韓屋聖堂原型復元の感謝礼拝を捧げました。新しい聖堂は、10余年間かけて竣工に至ったと言います。野山地形をそのまま利用したので、3階構造になっていますが、下から見ると4階のように見えます。正門の外側には司祭館があり、その建造物も1933年に建てられた原型を維持しています。司祭館の平面構造は伝統的な韓屋ですが、内部は非常に多様な構造を見せ、韓国宣教の初期におけるイギリス人神父の住居文化を垣間見ることができます。



クァンソング
7. 廣城堡

江華海峡を守る重要な要塞で江華12鎮堡の一つで、高麗時代にモンゴルの侵略に対抗するために江華島に遷都した後に石と土を交ぜて海峡に沿って長く積んだ城です。朝鮮時代光海君の時ただれられたところをまた直し、1658年に江華留守が廣城堡を設置。その後1679に完全な石城として逐造しました。高宗3年（1866）フランスの極東艦隊と熾烈な激戦（丙寅洋擾）を行い、高宗8年（1871）開港を要求して江華海峡を武力侵略した米国のアジア艦隊と戦った一番熾烈だった激戦地です。この戦闘で朝鮮軍は劣勢な武器に奮戦している途中虜になるのを拒否、何名の重傷者を除いて全員が殉国しました。この時破壊された門樓と高台を1976年に修復し、当時戦死した無名勇士たちの墓と魚在淵將軍の戦跡碑などを補修・整備しました。



8. 草芝鎮

チョジジン

海上から侵入する外賊を防止するため、朝鮮 高宗7年（1656）に江華留守の洪重普が初めて設置し、高宗3年（1866）10月天主教弾圧を口実に侵入したフランス極東艦隊と戦い（丙寅洋擾）、高宗8年（1871）4月に通商を強要し侵入した米国ロージャスアジア艦隊に陥落された事もあります。高宗12年（1875）8月に侵攻した日本軍艦雲揚号と草芝鎮砲台と激戦を展開した所で、砲弾を受けた松2株と城壁が保存されており、当時の熾烈だった状況を察することができます。この草芝鎮は皆崩れた墩臺（高台）の跡地と城の基礎だけ残っていたことを1973年草芝墩（鎮より小さな部隊）だけ修復しました。草芝鎮には3ヶ所の砲座があって銃座が100余所あり、朝鮮末の大砲1門が砲閣（大砲を保護するために設置した小屋）の中に展示されています。



9. 江華歴史館

江華郡は先史時代の遺物である支石墓をはじめ、世界文化遺産に登録された高麗時代の八萬大藏經、及び金属活字、高麗磁器など煌びやかな文化の花を咲かせた高麗の遺跡地です。以後朝鮮時代の丁卯胡亂と丙子胡亂の時、仁祖王が避難した首都でもあり、朝鮮末期には大院君の鎖国政治と天主教の弾圧によって引き起こしたフランス艦隊の侵入事件の丙寅洋擾、そして辛未洋擾その後、雲揚号事件により江華条約締結など風雲を経験した歴史の産室として、江華島全域に大小14個に及ぶお寺と107点の文化財を大切に保管した歴史の本場です。国難を克服した強い民族の底力と賢い文化を継承させ、民族抗争の偉業を宣揚し護国精神の育成のため、1984年から5ヶ年事業で16億7千万ウォンを投入し、1988年9月14日江華歴史館を開館しました。歴史の古都であり開国の神話が残っている場所である江華島の文化遺産を、ひと目で見る事ができる所です。展示館の1階には先史歴史室が展示されており、2階には、国難克服室があります。